

## 講演Ⅱ

## 流体芸術 Invisible Beauty : Sound of Ikebana, The Art of ZEN : Genesis

京都大学 情報環境機構教授  
京都大学大学院 総合生存学館兼任教授

土佐 尚子



### 【プロフィール】

東京大学（博士 工学）。今までコンピュータで定量化できなかった民族性といった人々に内属するものを扱い、芸術とテクノロジーの融合により日本文化の伝統を作っていくこと（カルチュラルコンピューティング）を提唱する。つまり、歴史の中で行為や文法などの形で蓄えられてきたものをデジタル化して伝統を創造する。その芸術を心で理解することによりグローバルコミュニケーションが深まる。これが芸術の力である。

ACM SIGGRAPH, ARS ELECTRONICA といった代表的な芸術とテクノロジーの国際会議にて、講演と共に作品発表。ニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館等の企画展に招待展示。作品はアメリカンフィルムアソシエーション、国立国際美術館、〇美術館、富山県立近代美術館、名古屋県立美術館、高松市立美術館で収蔵されている。最近は作品「サウンド・オブ・いけばな」や琳派400周年プロジェクトマッピングを京都国立博物館で実施している。

平成28年度文化庁文化交流使の任命を受け、作品のストリートジャックをタイムズスクエア（ニューヨーク）、シンガポールおよびロンドンで実施するなど、世界でジャパニズム旋風を巻き起こした。

### 講演概要

音の振動から作られた液体の造形「Sound of Ikebana」コンテンツを作成するための基礎技術として、筆者はハイスピードカメラで音の振動から作られた液体の造形を撮影する方法を開発した。ハイスピードカメラは、これまで物理的な物質の爆発のように非常に短時間で発生する様々な現象の撮影に使用されてきたが、その用途の大半は科学技術の実験におけるものである。一方筆者は、液体などの物質が「ミルククラウン」に代表されるように様々な美しい有機的な造形を生成することに関心を持った。そして絵の具などの液体に音の振動を与えて、音の特徴・液体の種類・液体の粘度を変化させることにより、液体で生け花のような形状を作成することができることを見いだした。

筆者らはこの環境を用いて撮影されたビデオ画像を日本の季節の色に合わせて映像編集することで、前記の「Sound of Ikebana」と呼ばれる作品を最初に制作した。この作品を用いて2014年にシンガポールにおいてプロジェクトマッピングを行った。

京都におけるプロジェクトマッピングでは、このコンテンツをベースとするとともに、ハイスピードカメラで撮影する材料として、絵の具以外にビーズなどの装飾素材、食材のオイルや洋菓子のトッピング、ナッツ・和菓子の素材など、多くの種類の材料を使用することにより、新しいコンテンツを制作した。